

2024（令和6）年度

京都大学教育学部
学士入学
試験問題

※選択されなかった外国語科目については掲載していません。

2024年度

京都大学教育学部
学士入学試験問題

外国語

英語

注意

1. 指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙には、1枚ずつすべてに受験番号、氏名、受験科目を必ず書き入れること。(※印のところは記入しないこと。)
3. 出願の際に届け出た受験外国語科目と配付された問題が同一であるか確認すること。受験科目の変更は認めない。
4. 解答は、問題番号に付しているローマ数字で区分された問題ごとに必ず解答用紙を替えること。(各問1枚とする。)
解答に際しては、各解答用紙にローマ数字の問題番号を必ず記入すること。
提出する解答用紙は2枚である。
解答用紙の表だけではなく、裏面を使う場合は、裏面の天地を逆に
して続きを書くこと。
5. 問題用紙と下書き用紙は持ち帰ってよい。

英 語

I. 次の英文を日本語に全訳しなさい (50点)。

【問題文】

(問題文略—後掲<注意>を参照のこと)

<注意>

問題文は、John D. Bransford, Ann L. Brown, and Rodney R. Cocking, eds., How People Learn: Brain, Mind, Experience, and School, Expanded Edition, National Academy Press, 2000 の 112 頁 2 行目～16 行目を引用した。

Ⅱ. 次の文章の下線部をすべて和訳しなさい。(50点)

【問題文】

(問題文略—問題用紙3頁目の後掲<注意>を参照のこと)

(次頁へ続く)

【問題文】

(問題文略一後掲<注意>を参照のこと)

<注意>

問題文は、Arturo Escobar, *Designs for the Pluriverse: Radical Interdependence, Autonomy, and the Making of Worlds*, Duke University Press, 2018, pp. の110頁17行目～111頁12行目を引用した。なお、下線部は、110頁24行目「Digital technologies」から始まり111頁2行目「we consider them」までの文を指す。

2024年度

京都大学教育学部
学士入学試験問題

外国語

フランス語

注 意

1. 指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙には、1枚ずつすべてに受験番号、氏名、受験科目を必ず書き入れること。(※印のところは記入しないこと。)
3. 出願の際に届け出た受験外国語科目と配付された問題が同一であるか確認すること。受験科目の変更は認めない。
4. 解答は、問題番号に付しているローマ数字で区分された問題ごとに必ず解答用紙を替えること。(各問1枚とする。)
解答に際しては、各解答用紙にローマ数字の問題番号を必ず記入すること。
提出する解答用紙は2枚である。
解答用紙の表だけではなく、裏面を使う場合は、裏面の天地を逆にして続きを書くこと。
5. 問題用紙と下書き用紙は持ち帰ってよい。

フランス語

1. 次の仏文を日本語に全訳しなさい。(50点)

【問題文】

(問題文略—後掲<注意>を参照のこと)

<注意>

問題文は、Bruno Garnier, *L'Égarité en éducation*, Éditions Ophrys, Paris, 2012 の 24 頁 16 行
目～24 頁 26 行目を引用した。

フランス語

II. 次の仏文を日本語に全訳しなさい。(50点)

【問題文】

(問題文略—後掲<注意>を参照のこと)

<注意>

問題文は、Georges-Louis Baron, "Les technologies dans l'enseignement scolaire: regard rétrospectif et perspectives", Les Sciences de l'éducation - Pour l'Ère nouvelle, vol. 52, n° 1, 2019 の 105 頁 1 行目～105 頁 14 行目を引用した。

2024年度

京都大学教育学部
学士入学試験問題

一般教育科目

注 意

1. 指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙には、1枚ずつすべてに受験番号、氏名、受験科目を必ず書き入れること。(※印のところは記入しないこと。)
3. 問題Ⅰは現代教育基礎学系、問題Ⅱは教育心理学系、問題Ⅲは関連教育システム論系からの出題である。計3問のうち、入学志願票に記入した第1志望系と第2志望系の問題、計2問を必ず選択すること。志望系の変更は認めない。
4. 解答は、問題番号に付しているローマ数字で区分された問題ごとに、必ず解答用紙を替えること。(各問1枚とする。)
解答に際しては、各解答用紙にローマ数字の問題番号を必ず記入すること。
提出する解答用紙は2枚である。
解答用紙の表だけではなく、裏面を使う場合は、裏面の天地を逆にして続きを書くこと。
5. 問題用紙と下書き用紙は持ち帰ってよい。

一般教育科目

次のⅠ～Ⅲの3問のうち、入学志願票に記入した第一志望系と第二志望系の問題、計2問を選択して解答しなさい。

(100点：各50点)

〈現代教育基礎学系〉

- Ⅰ. 世界的に、教育において「ウェルビーイング (well-being)」を重視する動向が見られる。このような動向について説明するとともに、その意義と課題について論じなさい。

〈教育心理学系〉

- Ⅱ. 「個人差」について心理学的にどのように理解しうるか、
(A)認知心理学・教育心理学と(B)臨床心理学のそれぞれの立場から論じなさい。その際、具体的な理論や研究をとりあげ、それらを踏まえつつ論じること。

〈相関教育システム論系〉

- Ⅲ. 近年、地方創生や学び直しの拠点として学校への期待が高まる一方で、教員の働き方改革などの文脈から学校への依存に対する懸念も指摘されている。双方の見解を踏まえ、今後の学校の役割について論じなさい。